

旅行取扱状況の概観（平成26年10月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取扱いは、一般団体は前年比109.1%と前年を大きく上回ったが、学生団体は同73.5%、団体旅行合計で同95.0%と前年を下回った。企画旅行については前年比86.7%と前年を下回ったものの、個人旅行については同105.1%と前年を上回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比92.4%と前年を下回った。

国内旅行の取扱いは、一般団体は前年比111.7%、学生団体は同127.4%、団体旅行合計で同121.1%と前年を大きく上回った。企画旅行については前年比92.1%と下回ったが、個人旅行については同100.9%と前年を上回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、102.2%と前年を上回った。

外国人旅行は、前年比158.7%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の10月の総取扱額は前年比99.5%となり前年をやや下回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は大型の招待旅行や観光・親睦旅行の取扱いはあり、前年比110.0%と前年を大きく上回った。学生団体は昨年取り扱った複数の大型の修学旅行の取扱いの反動があり、同73.5%と下回った結果、海外団体旅行合計で同95.3%と前年をやや下回った。

国内団体については、一般団体は大型の大会・会議や職場旅行の取扱いはあり、前年比112.1%と前年を大きく上回った。学生団体は堅調に取扱いが増加し、同127.4%と前年を上回った結果、国内団体旅行合計で前年比121.4%と前年を大きく上回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比89.8%と前年を下回った。方面別取扱人数の状況では、九州方面が好調を維持しており、東北・伊勢志摩を除く東海・関西・南紀方面も比較的好調に推移した。低価格帯商品のラインナップを縮小させた影響もあり全般的に伸び悩んだ。

ホリデイは、引き続き東アジア方面を中心として全般的に不調である。各方面とも低価格帯商品のラインナップを縮小させた影響もあり、全体の取扱人数、取扱額とも前年を下回った。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、円安や政情不安、エボラ出血熱など外的要因に晒されたが、アメリカ、オセアニアといった主要方面が好調を維持し、前年比107.3%と前年を上回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、台風18号・19号によるツアー中止や御嶽山噴火の影響により、前年比92.1%と前年を下回った。

バス旅行部門も、台風18号・19号によるツアー中止や御嶽山噴火の影響により、前年比88.4%と前年を下回った。

テーマ旅行部門も同様に、登山やハイキング商品を中心に、台風18号・19号によるツアー中止や御嶽山噴火が影響し、前年比94.5%と前年を下回った。

以上